

生徒が学びに『自走』するための「単元構想」と「評価」の工夫

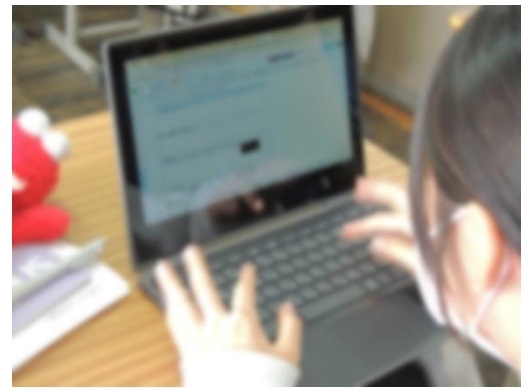
実践内容



【7教科の公開授業・自由公開授業】
個別最適な学びを充実させながら、各教科で目指す資質・能力の育成を目指し、多くの教科、多くの先生方が公開授業を行った。全ての教科で同一の「単元指導案」を使い、生徒が学びに自走するための手立てを共有化し、実践した。

【ルーブリック評価への挑戦】

生徒と教員が評価規準を共有するルーブリック評価を取り入れた。単元の導入や毎時間の振り返りの場面で提示した。生徒にとって分かりやすい言葉に置き換え、生徒自身が単元でつける力を意識できるようにした。



【充実した職員研修】

信州大学教育学部の村松浩幸先生を全体指導者とし、授業を見ていただくことはもちろん、GoogleチャットやZoomにて助言いただき、オンラインでも情報共有を行った。また、愛知県、東京都などの実践校への県外視察も積極的に行った。

成果と課題

成果

- 個別最適な学びの充実を目指した研究を進めて、3年目となる。教科に関わらず、生徒が学びに自走する姿が見られるようになってきている。
- 学校独自の授業評価アンケートや全国学力学習状況調査の生徒質問などの調査結果から、数値として成果が見られるようになってきている。

課題

▲毎年多くの先生方が授業を公開したり、他校の授業公開に足を運んだり前向きな授業研究ができてきている。今後、「持続可能な研究」にしていくための仕組み作りを考えていく。